

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	意識が事業所内のことに向きがちで、ホームと地域の関係についての職員の意識は正直なところ高いとは言えない。そういった意識を少しずつでも変えてゆくところから始める必要がある。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	「地域と交流している時間的・人的余裕がない」という意識を変えて行かないと行動には結びつかない。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	道路から見える看板に介護相談に応じる旨記載している。電話による相談・問い合わせにホームの空き情報を伝えたり、より専門的な相談機関として最寄の地域包括支援センターを紹介したこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の制度的な位置づけや意義については毎年職員に説明し、自己評価についても、今回は職員に担当箇所をわりあてて記入してもらい管理者らがとりまとめるという手順で行なうことで、職員に評価をより身近なもの意識させるようにした。評価を活かした具体的取り組みについては実績が乏しく、評価がすぐにサービスの質の向上に結びついていない面がある。	○	評価は、ホームを客観的に見つめる良い機会なので、職員個々がまずはそのことを意識することが必要。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者交代後、顔合わせ的な意味で運営推進会議を開催したところであり、その場で、認知症やグループホームについての説明を行った。	○	会議の方向性をはっきり定めぬまま開催した面もあり、参加メンバーにとっても、会議の位置付けの理解が不十分であると考えられる。まずは回を重ねながら、サービス向上といった本来の目的に近づけていく必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に行き来する機会はつくれていない。運営推進会議のメンバーにも市町村担当者は含まれていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在ホームで必要度が高いと思われる利用者がいないため、特に取り組みをしていないのが現状。また、職員によっては制度自体を知らない者もあり、理解度も様々である。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば、外部研修に職員を派遣することで意識向上に努めたいと考えているが、虐待関連に限らず、人員上の都合で外部研修への参加が容易でないのが現状。	○	内部研修を行なうことで意識を高めてゆきたい。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にもとづき説明を行なっている。質問等には、納得の行くまで説明するのを基本姿勢としている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けてあることを利用開始時に説明している。実際にあらたまって不満・苦情というかたちで表出されることはまれで、日ごろの関わりのなかから本人の思いを聞いたり、汲み取ったりすることで、本人の意向に沿っていくことがほとんどである。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや健康状態などについては写真を添えた「お便り」という形式で、金銭管理については所定の様式で、それぞれ月1回家族等に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けてあることを利用開始時に説明している。また、ご意見箱を設置し、意見表明の場としている。とはいえ、上記のルートで意見がもたらされることはほとんどなく。それをして、不満がないとして済ませてしまっている面がないとはいえない。	○ ホームに面と向かっては言い難いと考える家族の心理をまずはふまえる必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は朝礼や個人面談を必要に応じて行い、職員の意見を聞く機会としている。管理者は毎月のホーム会議で職員からの意見・提案を募るほか、日常業務のなかから出た意見で運営に活かせると判断したものについては取り入れるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	前回評価時にはなかった早出の勤務形態を設け、Bユニットに配置している。利用者により早く起きてもらえる、目が行き届くようになり事故のリスクが減るなどの効果があると考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度中を見ても、管理者をはじめとして職員の離職が多く出ている。運営者は職員補充を速やかに行なうことで、まずは職員個々の負担軽減に努める事を対策としている。	○ 職員が働き続けられる環境づくりについて、会社・ホームとして真剣に取り組む必要がある。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者・職員が研修を受けることに理解があり、また奨励もするが、計画的であるとはいえない。また、実際上の問題として、人員はまず介護業務に専念することを余儀なくされるのが現状なため、外部研修に人を派遣するのが難しい状態である。</p>	<p>○</p> <p>必要に応じて内部研修を行ない、外部研修に参加できない分を補う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列のグループホーム間で職員の相互派遣をし、交流・情報交換をはかってきたが、昨今は人員の都合がつかず進捗していないのが現状。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ホームと統括部門が地理的に離れているため現状把握が難しいという制約がある。運営者は朝礼、個別面談を不定期に行い、現状把握に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務実態を間近に見る機会が運営者にはほとんどない。また、管理者が運営者に報告しようとしても客観的指標がなく、主観的・断片的なものとなりがちであるのが現状。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前にはホームの見学に来てもらったり、利用に向けた話し合い時には自宅やホームで本人の話を聴く機会を設けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前にはホームの見学に来てもらったり、利用に向けた話し合い時には自宅やホームで家族等の話を聴いたり、本人の希望や不安を代弁してもらったりする機会を設けている。</p>	

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・問い合わせ内容がホームの空き状態に関するものであることがほとんどで、対応も自然とそれに関するものになっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にはホームの見学をしてもらい少しでも不安を取り除いてもらうようにしている。家族からも本人の心配事をよく聞き、利用開始後も必要に応じて連絡を取り合うことで、ホームでの生活に馴染んでゆけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションをよくとるように努め、料理、家事、昔の生活習慣などが話題になるときは、人生の先輩から学ぶ姿勢で接するよう心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	もとよりホームの職員だけでは本人を支えてゆけず、本人のこれまでが一番よく知る家族の助けがあってはじめて本人の望む生活が実現できると考えている。その一方、なかなか頻繁に連絡を取り合えていない家族がいるのも事実である。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	なかには本人との関わりを避けていたり、面会の極端に少ない家族もあるが、本人の求めが止みがたい場合を別として、こちらから強引に関わりを求めるのではなく、毎月のお便りなどで本人の元気な姿を報告するなどして、まずは安心してもらうよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの人・場所についてはアセスメントにより把握に努めている。実際に会ったり、訪ねたりするところまでは支援が及んでいないのが現状。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話のきっかけをつくったり、諍いになりそうなきときには仲立ちに入ったりと、お互いのコミュニケーションが円滑になるようにさりげなく支援している。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後に本人・家族の側からの連絡がほとんどないのが現状。そのせいではないが、こちらから現況を尋ねることもなく、契約終了後の関係性について事業所としての方針を持っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により本人の意向の把握に努めている。本人から直接「〇〇して欲しい」という要望のない場合には、日常会話や生活ぶりから本人の希望や意向をくみ取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により生活歴等の把握に努めている。本人からの情報量が少なかったり、客観性が担保できない場合が多いので、家族の面会時などに補う場合もあるが、まとまった時間がとれず、そちらの情報量も決して多くはない。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式により本人の現状を総合的に把握するよう努めている各担当者がアセスメントに取り組んでいるが、就業時間内にまとまった時間がとれず、情報収集・分析が不十分になりがちな面もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護職のアセスメントをもとに、ケアマネジャーと介護職が協議し、ケアプランを作成している。その際本人・家族の意見・要望が反映されたものとなるよう、日常会話や面会等で得られた情報・意見を活かすようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを行ない、ケアプランが本人の状態に相応しいものとなっているか評価している。また、モニタリングの時期以外でも、本人の状態変化に合わせてケア内容を見直している。家族が面会などで本人の状態変化に気付いた場合などには、その意見をケアに活かさないか職員間で検討することになっている。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに介護記録を整備している。重要情報に注目しやすいうように項目記入欄を設けたり、医療情報は青地で記入したりと、情報の伝達・共有がスムーズなものとなるよう記録様式に工夫を加えてきている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から外出や、通院への同行の申し出があった場合には、可能な限り意向に沿うようにしている。買い物など本人の個人的な外出については、徒歩圏内に適当な店がないなどの理由から職員が買い物を代行することが多くなりがちである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の際には、管轄の消防署に依頼し指導を受けている。ボランティアについては、行事などの際に学生サークルによる落語を披露してもらったりと不定期にはあるが受け入れている。	○	各機関、ボランティアなどにはこちらからもっと積極的に働きかけて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はホーム以外の事業者からのサービス利用はない。本人の意向や必要性があれば柔軟に対応してゆきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジメントについては、ホーム所属のケアマネジャーが行なっている。最寄の地域包括支援センターとは、運営推進会議や会合などを通して若干の付き合いがあるが、日常的な協働関係にあるとは言えない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始の際にホームの協力医療機関により日常的健康管理を行なう旨、本人・家族に説明し納得してもらっている。既往歴によっては従来からのかかりつけ医療機関に受診したり、また、家族の希望により提携外の歯科に受診したりといったケースもある。その際の対応は家族に任せることが多く、提携外の医療機関とホームとの連携がとれているとは言い難い。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化・終末期のことについてきちんと話し合う機会や仕組みをホームとして用意しておく必要がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけの際の声のトーンに気をつけ、あくまで人生の先輩として敬意を持って接するように心がけている。つい馴れから、目上の人に対して相応しくない言葉遣いが見られたときは、お互い気をつけあうようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらで何でも決めてしまうのではなく、場面ごとに本人が意思表示できるような問いかけを心がけることで、自己決定を支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆるやかながら一日の流れが大体決まっているが、全員がその流れに沿うとは想定しておらず、場面ごとに本人の気分や状態を受け止めたうえで支援している。個別の外出などは、人員上の理由で必ずしも希望に添えていない面がある。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性は訪問美容を利用し、本人の希望を職員が詳しく伝えるようにしている。男性は近くの理容店に職員付き添いで出向いており、良い気分転換にもなるようで好評である。なかには、以前からの馴染みの店に家族と出掛けることで、これまでの生活とのつながりを大切にしている利用者もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・材料を業者に任せていたやり方を、職員が持ち回りで献立を考え、生協の共同購入で材料を調達するやり方に改めた。時には利用者により好みを聞いたり、季節の食材をとりいれたり、それぞれ工夫している。準備は利用者の得意や能力に応じて役割を持ってもらっている。主に女性を中心となるが、男性も、声を掛けるとお米研ぎや洗い物など快く引き受けてくれることが多い。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・たばこ等の嗜好品については、本人の習慣が消失している、家族からの要望、などの理由でたしなむ利用者は現時点ではない。また、こちらからあえて勧めることもしていない。お菓子などについては、家族が本人の好みのものを定期的に差し入れしているケースもあり、夜間の食べすぎなどに気をつけたうえで楽しんでもらっている。	

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で利用者ごとの排泄パターンの把握に努めている。排泄形態については本人の習慣や力に相応しい形で支援している。尿取りパッドなどの使用に踏み切る際にも、即断はせず、必要性について職員間で協議し家族の意向もふまえて判断している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日として設定している曜日(週2回)があるが、本人の気分・体調次第で必ずしもその日に入浴しているわけではない。時間帯については、職員配置上夜間の入浴には対応できていない。	○	入浴回数を増やすことについてはもっと話し合っ行って行かねばならないと思う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間については基本的に本人のペースに委ねている。時間の感覚があいまいなどの理由のある利用者については、本人の眠気の兆候などを見計らって支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員のピアノ演奏にあわせて童謡や昔の流行歌を唄ったり、季節に合わせた工作物を製作したりして楽しんでもらっている。集団で行なうことがほとんどで、個人の生活歴がきちんと反映しているとは必ずしもいえない。	○	集団での活動にこだわらず、個人の趣味や得意を活かした活動を取り入れても良いと考える。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、本人・家族の同意を得たうえでのホームによる管理を基本としている。希望のある利用者については、紛失のリスクについて家族に説明した上で、本人の手元にお金を所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候・天候を判断して近所の散歩に出掛けてもらうようにしている。人員上の都合から、他の介護業務より優先順位が下に来ってしまうのが現状ではある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出については、人員が都合できず行なえていないのが現状。お盆、年末年始に外出や一時帰宅、旅行に家族と出掛ける利用者はいらる。その他、ホームの行事として春・秋に全体で金閣寺などの観光地や動物園、植物園などに出掛けてもらい、小旅行気分を味わってもらっている。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時には電話をかける支援をしている。また、まれではあるが、個人的な通信物を本人に代わってポストに投函したりもしている。また、職員から呼びかけて、家族宛に年賀状や暑中見舞いを出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者は気兼ねなく過ごせるよう利用者の居室へ案内したり、遠方の人には本人の近況を伝えたりと、訪ねてよかったと思ってもらえるよう気を配っている。また、頻繁に訪ねてくれる家族もあり、得意なピアノを披露してくれるうちに他の利用者 とすっかり顔なじみになったケースもある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。身体拘束にあたる具体的な行為の内容について知識があいまいな職員もおり、理解度には差があるのが現状。	○	内部研修を実施し、日頃から理解を深めておくことが必要。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がついておらず、本人が居室を出入りする事はいつでも可能である。玄関は開放しており、プランターに水を遣ったり、洗濯物を干したりと自由に出入りしてもらっている。敷地外へ出る門は、無断外出をしてしまう利用者があり、安全確保の観点から現在施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者ひとりひとりの所在を常に確認し、職員間でも連絡を取り合っている。居室にいる時間の長い利用者には、時々さりげなく声を掛けに行くなどして様子を把握している。夜間は最低2時間おきに巡回し、安全を確かめている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	例えば裁縫道具など、注意が必要だが本人のなじみの道具でもあるものについては、自己管理ができる人には手元に置いてもらっている。自己管理では紛失・負傷等の危険のある人については職員の目の前で使用するなどし、危険を取り除いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ヒヤリハット発生の際は報告書を作成し、情報を共有することで再発防止に努めている。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防から人を呼び、救急救命講習を受講したことがあるが、その後日常的に訓練できておらず、知識がしっかり身につけているとはいえない。	○	講習を受けるだけでなく、いざというときに備えてホーム内部でも反復して訓練しておく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、避難訓練を消防の指導の下年2回ペースで実施している。災害時の地域からの協力については、過去運営推進会議で話し合ったこともあるが、具体的動きには発展していない。	○	お互い支えあう関係として、できれば地域とはもっと関係を深めておきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用開始後の本人の状態とその変化については、起こり得るリスクも含めて毎月のお便りで報告するようにしている。また、夜間転倒リスクの大きい利用者に対しては、家族等にその旨説明し、了解の上、センサー付きマットをベッド下に設置したりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや常時の観察により体調の変化の発見に努めている。申し送り時には口頭で伝え、介護記録には青地で記入し情報の共有を図っている。判断に迷ったり、早期の対応が必要とされる場合には、協力医療機関に電話で相談しアドバイスを求めるなどしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬について理解が及んでいないが、処方が変わったり、用法・用量等で注意を要するものについては医師・薬剤師の指導を受け、職員間に周知するようにしている。また、チェック表を用いて、飲み忘れを防ぐ工夫をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	すぐに薬に頼るのではなく、水分補給や体操などで、自然な排便をうながすはたらきかけをしている。それでも便秘がちなひとには、医師と相談のうえ下剤や坐薬を使用してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを励行している。なかには、長年歯磨きの習慣がないため拒否感をあらわにする利用者もおり、仮に磨いてもらったとしても歯科的見地から不十分であることもある。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を個別のチェック表で確認している。食事の形態については現時点ではほぼ普通食で対応できているが、食の細いひとには少し小さくして出したり、必要に応じた個別対応は心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一通りマニュアル化してあるが、必ずしも周知徹底できているとは言いがたく、知識に差がある。日常的取り組みとして手洗い・うがい・消毒を励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い・消毒を励行し、食器乾燥機を使用している(食器乾燥機はAユニットのみ)。布巾は毎晩消毒している。購入する食材は賞味期限に注意し、冷蔵庫内を常に清潔に保つよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	通りからは見えにくいものの、玄関付近は花壇・鉢植え洗濯物干し場があり、人の生活の場という雰囲気が出ている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節感を取り入れたカレンダーを張り出すことしており、利用者・職員が毎月一緒に製作に励んでいる。廊下・トイレ・浴室に冷暖房装置がなく、入浴時などには扇風機や電気ストーブを使用し、温度差を最小限にとどめるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはソファを置いている。普段利用者が集まっている場所から少し離すようにしてあり、一人の時間や少人数での会話に適している。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらうよう、利用開始時に本人・家族に説明している。個人差はあるが、初めはベッドと備え付けの家具だけだった部屋が、家族の写真や、孫の描いた絵などで段々とその人の部屋らしくなっていったりしている。また、本人の希望で床から畳に変えた部屋もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝各所の換気を行ない、空気を清潔に保つようになっている。居室・リビングには空調があるため温度調節がしやすいが、廊下等には空調がないため、建物内で温度差が生じてしまっている面がある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にスロープ、居室・共用部分に手すりが設置してある他は、浴室や階段等一般家庭並みの状況といえる。利用者は自力で、あるいは部分的な介助で建物内を移動できているのが現状。	○	なかには手すりのない居室もあり、現時点の身体機能から大きな問題はないが、今後重度化した際に安心して住み続けてもらうためにも、一定の設備改善が必要になってくることが予想される。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとりひとりの状態に応じて、分かりやすい言葉を選んで声を掛けている。仮に混乱や失敗があっても自信や誇りを傷つけないよう、接し方には配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季折々を肌や目で感じてもらうよう、玄関先の花壇に花を植えたり、ベンチを置いてくつろげるようにしている。天気の良い日には、歌を唄ったり、昼食やおやつも楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム安らぎでは、入居者様とともに職員も一緒に生活を楽しんでいる雰囲気がある。今後も信頼関係を深めていけるよう努めたい。
 今年度は、食事の改善に力を入れて取り組んだ。献立や食材の調達を業者まかせにしていたやり方をやめ、職員が持ちまわりで献立を考え、食材を購入するようにした。ときには入居者様の好みを聞いたり、季節の食材を取り入れたりして、より家庭的な食事となるように工夫している。また、野菜は地元町内会の農家の方から、新鮮なものを購入している。食事の面をきっかけに、入居者様一人ひとりをより深く理解し、利用者本位のケアに近づけるよう今後も取り組んでいきたい。